

東日本大震災現地NPO応援基金〔特定助成〕
大和証券フェニックスジャパン・プログラム 2017
－被災地の生活再建に取り組むNPOの人材育成－

実施報告書

(2017年10月～2018年9月)

2018年12月13日

認定特定非営利活動法人日本NPOセンター

プログラム概要

- 本プログラムは、大和証券株式会社に「ダイワ・ニッポン応援ファンド Vol.3ーフェニックスジャパンー」の信託報酬の一部をご寄付いただき、認定特定非営利活動法人日本NPOセンターが「東日本大震災現地NPO応援基金」の特定助成として、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドと協力して実施しています。
- 東日本大震災の復興支援（被災者の生活再建等の支援）のため、NPOの果たす役割には、大きな期待が寄せられている。しかしその組織基盤は未だ弱く、必要な支援を自力で安定的に供給するためには組織の基盤強化が必要であり、特に適切な人材の確保と育成が不可欠である。このプログラムではそのような人材を雇用から支援し育成することで、被災者の生活再建への寄与を願うものです。

●プログラム概要

- ・プログラム名 東日本大震災現地NPO応援基金〔特定助成〕
大和証券フェニックスジャパン・プログラム
- ・テーマ 被災地の生活再建に取り組むNPOの人材育成
- ・助成対象 岩手県、宮城県、福島県等において被災者の生活再建を長期的視点で支援する「現地NPO」
- ・実施期間 2012年開始
- ・助成方法 公募助成（毎年1回の公募）
- ・助成期間 1年間（10月～翌年9月）
- ・助成実績
 - 2012年 3,100万円（新規助成7件2,950万円、合同研修助成150万円）
 - 2013年 3,503万円（新規助成5件1,860万円、継続助成4件1,493万円、合同研修助成150万円）
 - 2014年 3,210万円（新規助成7件2,325万円、継続助成2件685万円、合同研修助成200万円）
 - 2015年 3,680万円（新規助成6件2,489万円、継続助成3件941万円、合同研修助成250万円）
 - 2016年 2,407万円（新規助成3件1,080万円、継続助成4件1,327万円）
 - 2017年 3,153万円（新規助成7件2,690万円、継続助成2件463万円）

2017年助成プログラム（2017年10月～2018年9月）

(1) 2017年助成プログラムの経過

2017年助成は、2017年10月1日から開始し、2018年9月30日に1年間の助成期間を終了した。助成対象団体は9団体、育成対象スタッフは9名であった。

事務局は、助成対象団体へのフォローアップとして、育成レポート（4回／3カ月毎）など報告レポートの確認、中間インタビュー、合同研修会（2回）の実施に加え、適宜相談対応を行った。

<2017年助成対象一覧>

【新規助成】7件／助成額：2,690万円

No.	プロジェクト名	団体名	所在地	金額 (万円)
1	対象者の事務局長就任を目的とした資金調達面能力を主軸とする人材育成	認定特定非営利活動法人 桜ライン311	岩手県 陸前高 田市	391
2	被災者の生活再建を迅速に行うための防災ボランティアリーダー育成事業	特定非営利活動法人 いわて連携復興センター	岩手県 北上市	420
3	活動の自立のための中核人材育成事業	特定非営利活動法人 未来図書館	岩手県 盛岡市	300
4	地域活性化を目的とした羊飼育の担当スタッフのスキル向上	一般社団法人 さとうみファーム	宮城県 南三陸 町	374
5	持続可能な障害児支援を行うチームのマネジメントの視点を養う	特定非営利活動法人 奏海の杜	宮城県 南三陸 町	387
6	組織基盤強化のための事務局力育成	一般社団法人 日本カーシェアリング協会	宮城県 石巻市	455
7	運営体制整備のための人材育成事業	特定非営利活動法人 ビーンズふくしま	福島県 福島市	363

【継続助成】2件／助成額：463万円

No.	プロジェクト名	団体名	所在地	金額 (万円)
1	和グルメからの経済復興を担う中核人材の育成（2）	一般社団法人 SAVE IWATE	岩手県 盛岡市	222
2	中核スタッフの総合力強化による事業充実と組織強化プロジェクト（2）	特定非営利活動法人 故郷 まちづくりナイン・タウン	宮城県 登米市	241

(2) 2017 年助成の結果

【新規助成】

●17-1-1 認定特定非営利活動法人 桜ライン 311

「対象者の事務局長就任を目的とした資金調達面能力を主軸とする人材育成」

育成対象スタッフ：佐々木良麻（事務局スタッフ）

スーパーバイザー：岡本翔馬（代表理事）

団体の概要

津波被害の浸水域を視覚的に残し、被害を受けた世代だけではなく次の世代にも有事の避難における具体的な目安となるよう津波の到達地点に桜の植樹を行う。活動は地域住民だけでなく全国から参加者を募り、教訓に学ぶ防災・減災の取り組みへと繋げている。

助成による育成事業の内容

組織として代表理事と事務局長の分業を進めるため、育成対象スタッフが新たに事務局長に就任し資金調達や人事管理等を担うことができる知識と経験を得ることを目的とする。座学や研修への参加、および他組織でのインターンシップの実施などを通して行う。

成果と今後

講座受講により准認定ファンドレイザーの資格を取得。公益社団法人みらいサポート石巻（宮城県石巻市）にてインターンシップを行い、伝承活動と資金調達の知見を得た。また、事務局長の役割整理を機会として、スタッフおよび理事会内での話し合いも増加した。結果として、助成終了時の10月に育成対象スタッフが事務局長に就任することができた。今後の事務局長としての活躍が期待される。

- ・代表者：岡本翔馬
- ・所在地：岩手県陸前高田市
- ・設立年：2011年
- ・活動地域：岩手県陸前高田市
- ・<http://www.sakura-line311.org/>



●17-1-2 特定非営利活動法人 いわて連携復興センター

「被災者の生活再建を迅速に行うための防災ボランティアリーダー育成事業」

育成対象スタッフ：大向昌彦（事務局スタッフ）

スーパーバイザー：葛巻徹（常務理事（応募時））

団体の概要

東日本大震災の復興活動における中間支援団体として活動。「中間支援」、「防災」、「震災伝承・アーカイブ」を活動の柱とし、県内外の組織との連携を生かし、岩手県全体の市民活動の促進に寄与する。

助成による育成事業の内容

今後の県内での災害発生時においてNPOの立場からの支援リーダーとなること、および岩手県としての平時の連携体制モデルを作ることを目的とする。座学による知識獲得のほか、関係者へのヒアリングを通じた県内および全国での関係づくりにも取り組む。

成果と今後

防災士の資格取得、および実際の災害時に現場への派遣を行い、復旧・復興フェーズにおける経験を得た。また、全国の官民連携による災害支援体制のリストを作成したほか、特に連携が進む地域に視察も行った。岩手県内では県社協や、県内NPOとの災害時の支援体制強化にも繋がった。県域の組織として全国にネットワークを持つ強みを生かし、県内での更なる体制強化をリードしていくことが期待される。

- ・代表者：葛巻徹
- ・所在地：岩手県北上市
- ・設立年：2011年
- ・活動地域：岩手県全域
- ・<http://www.ifc.jp/>



●17-1-3 特定非営利活動法人 未来図書館

「活動の自立のための中核人材育成事業」

育成対象スタッフ：田上孝幸（事務局スタッフ）

スーパーバイザー：恒川かおり（主任コーディネーター）

団体の概要

「子どもと社会をつなぐ」ことを活動目的とする。主に小・中・高校の授業など独自に開発したプログラムを行い、子ども達が直接社会人の仕事や生き方を知り、自らの将来を考えるきっかけの場を創出している。震災の影響を受けている沿岸地域でも活動を行う。

助成による育成事業の内容

実践するプログラムの社会的経済効果を検証し見える化すること、およびそこでわかった価値を発信できるスタッフの育成を目的とする。専門家の支援による検証作業のほか、キャリア教育を行う他団体の視察を通して行う。

成果と今後

プログラムの効果検証はテキストマイニングの手法により行い、新たな広報ツールの作成にも繋がった。一方で効果検証には長期的な経過の調査も必要であることがわかった。さらに県外の5団体に視察を行い、活動面とともに資金調達など運営面での情報交換も行った。育成で得られたことを通し、今後のプログラムの更なるブラッシュアップと、資金面・体制面での組織基盤強化が進むことが期待される。

- ・代表者：古澤眞作
- ・所在地：岩手県盛岡市
- ・設立年：2004年
- ・活動地域：岩手県盛岡市、ほか
- ・<http://www.miraitoshokan.com/>



●17-1-4 一般社団法人 さとうみファーム

「地域活性化を目的とした羊飼育の担当スタッフのスキル向上」

育成対象スタッフ：金井雄飛（事務局スタッフ）

スーパーバイザー：金藤克也（代表理事）

団体の概要

南三陸町の農林水産業や地域経済の発展を目指す。南三陸町の自然を生かした子どもを対象としたイベントの実施や羊牧場の運営などを通してコミュニティの活性化を担う。

助成による育成事業の内容

団体の安定した運営のため、収益の核となる牧場で飼育する羊のブランド肉としての販売の安定・拡大、また製造しているワカメ飼料の販路確保を目的とする。育成対象スタッフの羊飼育の専門的な技術習得と、飼料製造の効率化によって取り組む。

成果と今後

北海道と山形県の羊農家に視察を行い、実践的な技術向上をはかった。結果として飼育頭数を約2倍にすることができた。また、全国および県内の飼育者とのネットワークを強化することができた。飼料販売は一部進展があり育成対象スタッフも製造開発に貢献した。

- ・代表者：金藤克也
- ・所在地：宮城県南三陸町
- ・設立年：2011年
- ・活動地域：宮城県南三陸町
- ・<http://satoumifarm.org/>



●17-1-5 特定非営利活動法人 奏海の杜

「持続可能な障害児支援を行うチームのマネジメントの視点を養う」

育成対象スタッフ：千葉渉平（事務局スタッフ）

スーパーバイザー：太齋京子（理事長）

団体の概要

放課後デイサービス事業（「にこま〜る」）、「みんなの広場」運営、地域交流事業の3本柱で、障がいの有無に関わらず生きにくさを抱える子どもたちの将来を見据えた日中活動の場を創っている。活動を通し、地域全体の障害福祉レベルの向上も図る。

助成による育成事業の内容

障がい児・者支援の知識と技術の向上のほか、育成対象スタッフが主体性を増して将来的にチームの中核人材となることを目指す。講師を招いた研修や視察訪問、さらに組織内でのチームビルディングワークショップの開催、育成対象スタッフの担当企画事業を行うことを通して取り組む。

成果と今後

支援技術においては、創意工夫をするなど支援の幅と経験を広げることができた。東京や大阪の団体に視察を行い、自団体での活動と照らし合わせ持ち帰ることもできた。さらに組織内においても、チーム内で意見の発言が増えたり、企画担当にチャレンジしたりするなど、活動を担うスタッフとしての経験を重ねることができた。今後も、組織内外の人の力を借りながら地域の支えとなる人材として経験を繋げていくことが期待される。

- ・代表者：太齋京子
- ・所在地：宮城県南三陸町
- ・設立年：2011年
- ・活動地域：宮城県登米市
- ・http://blog.canpan.info/hsc_kenpoku/



●17-1-6 一般社団法人 日本カーシェアリング協会

「組織基盤強化のための事務局力育成」

育成対象スタッフ：西條里美（事務局長）

スーパーバイザー：吉澤武彦（代表理事）

団体の概要

カーシェアリングを中心に車を活用した社会貢献活動を普及させることを目的とする。外出困難な方を地域で助け合う「コミュニティ・カーシェアリング」の導入と運営のサポートや、東日本大震災以降の災害においても、被災者および支援者への車両貸出も行う。

助成による育成事業の内容

活動が拡大する一方、報告や発信が追い付いていないこと、さらに、会計や税務における知識、スタッフの増員に伴う労働環境整備も求められている。そこで、継続・発展できる事務局の基礎作りを目的とした事務局長の育成に取り組む。他団体への視察や、税理士、社労士など専門家による指導を通じ行う。

成果と今後

団体として初めてのアニュアルレポートによる支援者への発信、サポーター制度の導入、車両や支援者など活動に係る情報管理のシステム導入を行うことができた。さらに、会計と税務における業務整理が進み、新しい就業規則も作成し、事務局内の体制見直しを集中的に行うことができた。視察は4団体に行い、運営ノウハウだけでなく非営利活動への理解を深めることにも繋がった。今後、事務局体制の整備に続き、活動内容と支援者の充実と拡大がさらに進むことが期待される。

- ・代表者：吉澤武彦
- ・所在地：宮城県石巻市
- ・設立年：2011年
- ・活動地域：宮城県石巻市
- ・<https://www.japan-csa.org/>



●17-1-7 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま

「運営体制整備のための人材育成事業」

育成対象スタッフ：遠藤宏志（事業部門長）

スーパーバイザー：若月ちよ（理事長）

団体の概要

震災以前より長年に渡り、フリースクールや若者サポートステーション、相談室などを通して、不登校の子どもやひきこもりの青少年の居場所づくりと自立支援を行う。被災した子どもや避難をした子どもの支援等も担う。

助成による育成事業の内容

震災後の急激な事業拡大によりスタッフが増えたが、それを支える管理・運営体制が伴わない状況を受け、育成対象スタッフが運営と現場スタッフの橋渡しの役割となることを目標とする。リーダーとしての自身のスキル養成ともに、組織内部における職員育成のプログラムをつくることを通して行う。

成果と今後

座学による組織におけるリーダーに必要な知識を学ぶと共に、育成対象スタッフが県内数か所の拠点を回り現場の活動と職員の状況把握を進めた。それらを踏まえ、各拠点の中心となる職員層に対する育成プログラムを体系化した。今後、育成プログラムの実施と改善を行い組織内での定着に取り組むとともに、法人全体の運営体制の強化が進むことが期待される。

- ・代表者：若月ちよ
- ・所在地：福島県福島市
- ・設立年：1999年
- ・活動地域：福島県内
- ・<http://www.beans-fukushima.or.jp/>



【継続助成】

●17-2-1 一般社団法人 SAVE IWATE

「和グルメからの経済復興を担う中核人材の育成（2）」

育成対象スタッフ：山田初美（事務局スタッフ）

スーパーバイザー：寺井良夫（代表理事）

団体の概要

被災地の市民等と協働し、被災者の救援、生活再建や被災地域の復興支援活動に取り組むことにより、安全で安心して暮らすことができる社会の形成に寄与することを目指す。盛岡を拠点に、被災者の方々の就労支援と生きがいづくりのため、和グルメによるビジネス創出のほか、裁縫や樹皮細工による手仕事、被災地の物産販売などを実施している。

助成による育成事業の内容

1年目の助成では、団体の中心的な活動である和グルメ製品の発展を目的として、製造の効率化などを中心として、事業の中核となるスタッフの育成を行った。2年目は、製造の効率化を更に進めると同時に、和グルメ事業のリーダーとしてチームの牽引と商品開発に取り組む。座学、OJT、外部視察を通して行う。

成果と今後

1年目の教訓を活かし、より自分達の事業に合う内容の講習を受講することで業務改善が進んだ。また、他地域でグルメ製品を販売する現場への視察により事業展開における視野を広げることができた。組織内でもリーダーとしての経験を重ねることで、スムーズな業務推進に繋がっている。団体の活動全体と製品の今後の展開に、スタッフ育成による効果がさらに活かされることが期待される。

- ・代表者：寺井良夫
- ・所在地：岩手県盛岡市
- ・設立年：2011年
- ・活動地域：岩手県盛岡市
- ・<https://svi.wate.wordpress.com/>



●17-2-2 特定非営利活動法人 故郷まちづくりナイン・タウン

「中核スタッフの総合力強化による事業充実と組織強化プロジェクト（2）」

育成対象スタッフ：和田直彦（事務局スタッフ）

スーパーバイザー：伊藤寿郎（専務理事・事務局長）

団体の概要

登米市合併を受け、地域資源の再発見や、まちづくり、自主防災などの地域活動を通じた学びの場を提供することにより、将来に向けて住みやすい地域づくりを支援することを目的として設立。東日本大震災の支援では、登米市や南三陸町で活動を行ってきた。

助成による育成事業の内容

1年目の助成では、事業実施における総合的なスキルアップを図りながら、自主財源確保や、中長期に働くことができる職場体制の確立に取り組んだ。2年目は、基礎から発展したスキルとして企画力やステークホルダーとの連携を密にすることを旨とする。

成果と今後

日常業務の効率化と共に、行っている事業を見える化しメニューとしても発信することにより事業受託にも繋がった。資金調達の間でも具体的な商品開発やマッチング募金で成功することができた。この2年間の育成において、事務局全体としての事業改善も推進しつつ、事業遂行のみではなく企画力、広報力、資金調達力が上がり、知識だけでなく経験として身につけることができた。育成対象スタッフを推進力として、今後、地域に必要とされる団体として更なる発展が期待される。

- ・代表者：小野寺敏
- ・所在地：宮城県登米市
- ・設立年：2009年
- ・活動地域：宮城県登米市
- ・<http://nine-town.org/>



以上